



一般社団法人

日本アカデミック・ディテリング研究会

4

Newsletter 2026

2026
August

第9回日本アカデミック・ディテラー養成プログラム 「臨床論文の薬学的吟味」の研修を行いました

日時 2026年8月2日(日) 12:30~17:30

開催形式 Zoom

参加者 26名

(病院薬剤師 9名)

(薬局薬剤師 16名)

(その他 1名)

テーマ：2型糖尿病 プログラム

SGD1「課題論文1の批判的吟味(RCT)」

グループディスカッション、発表、総合討論

課題論文の解説：川島 紀明

SGD2「課題論文2の批判的吟味(メタアナリシス)」

グループディスカッション、発表、総合討論

課題論文の解説：佐野 慶行

部会員からの話題提供

「部会員の選んだ3論文」：佐々木 優

「臨床エビデンスの活用事例(薬局編)」：中嶋 孝枝

Pick up! スモールグループディスカッション (SGD)

参加者は6班(各班4~5名)に分かれ、事前課題として提示された臨床論文を題材に、薬学的な問題点やバイアスリスクについてグループディスカッションを行いました。

研究デザインや統計解析結果の解釈、実臨床への適用について活発な意見交換が行われました。

その後、Aグループ(1~3班)、Bグループ(4~6班)に分かれ、各グループの発表および総合討論を実施しました。他班の視点を共有することで、論文を多角的に評価する重要性を再認識する機会となりました。

【SGD 1】

アテローム動脈硬化性心血管疾患を有する2型糖尿病患者を対象に、チルゼパチド(最大15 mg)がデュラグルチド1.5 mgと比較して、主要心血管イベント(MACE：心血管死、心筋梗塞、脳卒中)の発生率を低下させるかを検証したRCTを題材としました。

【SGD 2】

SU薬を投与中の2型糖尿病患者に対し、DPP-4阻害薬またはプラセボを追加した際の低血糖発現リスクを評価したメタアナリシス(RCT 10報を収載)を題材としました。

研修会を終えて

参加者自身が論文の問題点やバイアスリスクについて考え、意見を共有する機会となりました。

論文執筆者の意見をそのまま受け入れるのではなく、研究デザインや対象患者、評価項目、解析方法などを多角的に評価することの重要性を改めて認識する研修会となりました。今回得られた学びが、日々の薬物療法の適正化や患者へのより質の高い情報提供につながることを期待しています。

参加者の声

「論文に高いハードルを感じていたが、検索方法や批判的吟味のポイントを学び今後取り組むきっかけとなった」

「論文の解釈には難しさを感じたが、SGDで多様な意見を聞くことで一人では気付けない視点を獲得することができた」

「今回の学びを活かしエビデンスに基づいた情報提供や処方提案につなげたい」

お申込みはこちらから→

第9回 日本アカデミック・ディテラー養成プログラム (web)

テーマ：2型糖尿病

日 時：7月5日(日) 基礎薬学 8月2日(日) 論文吟味

9月6日(日) 処方提案 10月4日(日) コミュニケーション

次回研修会のお知らせ

<https://jpacademic-detailing.com/>

